

核攻撃機 沖縄に配備

嘉手納4月から 復帰後初か

米空軍が嘉手納基地（沖縄県嘉手納町など）に今年4月からロ
ーテーション（巡回）配備している戦闘機・F15Eストライクイ
ーグルが核攻撃能力を持っており、配備前には米本土で核投下試
験を行っていたことが分かりました。

米で投下試験

沖縄に核攻撃能力の保有を公にしている米軍機が配備されたのは、1972年の本土復帰後、初めてとみられます。政府はF15Eの配備について、「日米同盟にとって重要な取り組みだ」（浜田靖一防衛相、4月14日の記者会見）と容認しています。岸田文雄首相は19日に開幕する主要7カ国（G7）広島サミットに向けて「核兵器のない世界」の実現を標榜していますが、その欺瞞（ごまか）ぶりがあらわになっています。

嘉手納基地では、昨年まで配備されていたF15C/D戦闘機が老朽化のため帰還し、米本土から代替機の巡回配備が行われています。嘉手納を拠点とする米空軍第18航空団によると、F15Eは米アイダホ州のマ

ウンテンホーム空軍基地を拠点とする第391戦闘飛行隊に所属しています。核・非核両用能力（DCA）を有しており、戦術核兵器B61が搭載可能となってい

沖縄・米空軍嘉手納基地に到着したF15E戦闘機＝4月22日（同基地ウェブサイトから）

巡回配備 米本土の基地を拠点とする部隊が、所属はそのまま、海外の基地に数カ月程度、一時的に配備されること。



広島サミット「核なき世界」と矛盾

米空軍の公開資料によると、第391戦闘飛行隊に所属するF15Eは、2021年秋、ネバダ州のネリス空軍基地で実施された「DCA核兵器システム評価プログラム」に参加。B61の模擬弾を投下しています。米空軍航空戦闘コマンドの司令官はF15Eについて、「核兵器システム評価プログラム対応機として、同盟国には信頼を、敵国には多くの選択肢があることを知らしめる」とコメント。核の脅しをあらさまに誇示しています。

米「憂慮する科学者同盟」のグレゴリー・カラーキー氏（長崎大学核兵器廃絶研究センター・外国人客員研究員）は「F15Eは最新鋭のB61戦術核も搭載可能なDCA対空・対地攻撃機だ。広島で核軍縮を訴えようとしている岸田政権の方針と、核戦争準備につながる同機の配備は明らかに矛盾している」と指摘しました。